

研究主題「自分の思いや考えを明確に伝え、相手の意図をつかんで聞くことができる児童の育成—『話すこと・聞くこと』の指導を通して—」

東京都教職員研修センター 研修部 教育開発課
練馬区立開進第一小学校 主任教諭 井城 美穂子

第1 研究のねらい

小学校学習指導要領国語科の目標において、「伝え合う力」を高めることが求められている。伝え合う力を高めるためには、伝えたいことを聞き手が理解できるように明確に話したり、話し手が伝えたい意図をつかんで聞いたりすることが大切である。そして、それらの能力の基礎・基本は、国語科の授業で身に付けさせることが重要である。

しかしながら、「話すこと」における児童の実態として、自分の思いや考えを、準備したメモや原稿を読むことによって伝えることはできるが、場に応じて相手に分かるように伝えることは十分でない。また「聞くこと」においては、静かに話を聞くことはできるが、相手の伝えたいことを考え、自分の考えと比べながら聞くことには課題があると思われる。これらの課題を解決するためには、分かりやすく伝える方法を具体的に教えたり、聞くときに目的意識をもたせたりするなどして、学習形態や学習活動を工夫し、「話すこと・聞くこと」の経験が繰り返しできるような場の設定が重要であると考えた。

そこで本研究では、少人数による話し合いを中心に行い、話し手、聞き手等一人一人の役割を明確にした上で、それぞれの役割に対し参考例を示した指導を行う。そして、児童の自己評価を生かした教員による評価を毎時間行い、児童自身に成果と課題をつかませることで、自分の思いや考えを明確に伝え、相手の意図をつかんで聞くことができる児童の育成をねらいとした。

第2 研究仮説

話し手と聞き手のモデルを具体的に示した上で、計画的な役割交代を取り入れた少人数での話し合い、毎時間の振り返り等、学習形態や学習活動の工夫を行うことにより、児童は自分の思いや考えを明確に伝え、相手の意図をつかんで聞くことができるだろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

小学校学習指導要領解説国語編における、「話すこと・聞くこと」の高学年の指導事項によると、「話すこと」では、目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すことが示されている。「聞くこと」に関しては、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることが示されている。しかし、児童の実態として、「平成25年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）では、話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言することに課題があるという結果が出ている。また、「平成25年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会）の考察でも、聞き取るべき事柄を判断させ、聞き取った情報から考えさせる指導の充実を図る必要があるとされた。

これらの結果からも、自分の考えを相手に分かりやすく伝える話し方の指導と、相手の伝えたいことを考え、自分の考えと比べる聞き方の指導を行うことが重要であると考えた。

2 調査研究

平成25年7月に、都内公立小学校7校の第4学年～第6学年担任教員58名と、4校の第5学年・第6学年児童660名を対象に質問調査を行い、「話すこと・聞くこと」の指導及び学習に

関する実態と課題を明らかにした。

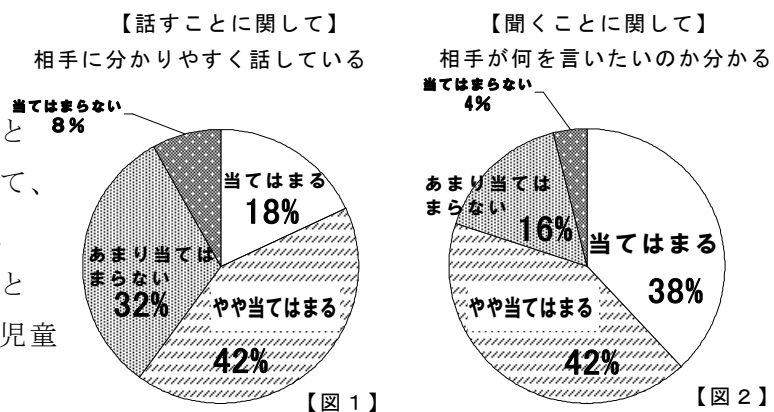
(1) 教員の調査より

「児童は相手に分かりやすく、明確に話すことができる」と肯定的に捉えている教員は29%、「児童は相手の話を引き出すような適切な質問ができる」に対しては、肯定的な回答は14%にとどまっている。これは、70%以上の教員が、児童は自分の思いや考えを明確に伝え、相手の意図をつかんで聞く力が十分に身に付いていないと感じていることを示している。

一方、「自分の学級の児童は明確に話すことができている」と肯定的に回答した教員は、「手本となる話し方の提示」、「司会等の役割交代」という手だてを多く取り入れていたことが分かった。また、「学級の児童は適切な質問ができる」と回答した教員は、「司会等の役割分担」、「少人数での話し合い」、「児童の実態にあったテーマの設定」という手だてを多く行っていることが明らかになった。このことから、具体的な手だてとして、少人数での話し合いや役割交代、手本の提示が有効ではないかと考えた。

(2) 児童の調査より

「相手に分かりやすく、内容をまとめて話している」という項目において、肯定的に答えた児童は60%（図1）、「相手が何を言いたいのか分かる」という項目において、肯定的に答えた児童は80%であった（図2）。



このことから、自分は明確に話したり、意図をつかんで聞いたりすることができていると感じている児童が比較的多いことが分かった。また、自分の意見や考えを発言していないと否定的に答えた児童の理由として、「自分の意見や考えに自信がないから」、「自分の意見や考えをうまく言えないから」が多かった。

(3) 調査結果からの考察

教員の意識と児童の意識との比較により、児童自身はできていると感じている話し方や聞き方が、教員のねらいとしているものよりも低いことがうかがえる。以上のことから、「話すこと・聞くこと」の指導と評価において、教員側の工夫が必要であると考えた。

3 開発研究

指導の工夫として、第一に、具体的な話し方や聞き方を丁寧に指導することが重要だと考えた。そして、少人数のグループによる学習形態と計画的な役割交代の工夫、児童と教員による毎時間の振り返りシートの開発を行うことにより、目的をもって学習に取り組めるようにした。

(1) 話し方・聞き方モデルを活用した指導の工夫

児童が基本的な話し方や聞き方をイメージしやすいように、一人一人が活用できるポイント集の作成と、ポイント集を活用した教員による実践モデルの提示を行った。

話し方ポイント集では、「一番伝えたいことを最初にはっきり言うこと」、「その後詳しく説明すること」、「一文を短くすること」の三点を明示した。聞き方ポイント集では、「相手が話しやすくなる相づちの打ち方」をレベル1、「相手の話を引き出す質問」をレベル2、「相手の話をつかむ質問」をレベル3とした。教員がポイント集を使ってそれぞれの例を挙げて示した。

【話し方・聞き方モデルの活用方法】

- ア ポイント集を児童一人一人に配布し、毎時間活用できるようにする。
- イ 話し方、聞き方を教員が児童の前で実践し、ポイント集を見ることでふさわしい使い方を児童自身に気付かせる。
- ウ ポイント集を活用して、三人グループによる話し合いを行う。書いてある言葉を段階ごとにできるだけたくさん使うように促す。

(2) 少人数のグループによる学習形態の工夫

児童に目的意識をもたせ、「話すこと・聞くこと」の活動を繰り返し経験させるために、少人数での話し合いを中心として、明確な役割分担と計画的な構成員の入替えを行った。

- ア 三、四人を基本としたグループを作る。発言者、質問者、記録者に分かれ、明確な話し方や相手の意図をつかんだ聞き方を意識して、インタビュー形式で話し合う。記録者は、最後に発言者の意図することをまとめて皆の前で話す。三分間の話し合いが終了したら、役割を交代して、全部で三回話し合いを行う（図3）。

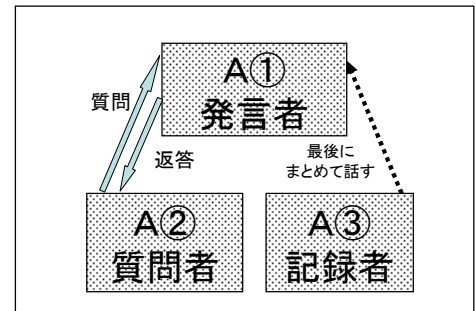


図 3

- イ 各グループ一人を残して、他の二人はそれぞれ異なったグループに移動する。新しくできた三人グループで話し合いを行う。最初のグループでどんな話が出たのか報告することが中心である。報告者として元のグループの話の内容を伝えることで、話す力が鍛えられ、他のグループの意見を聞くことで多様な意見に触れることも可能になる（図4）。

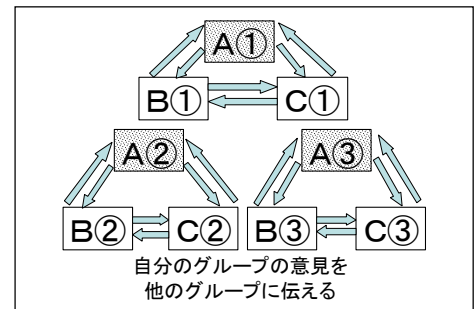


図 4

- ウ 最初のグループに戻る。他のグループでどんな意見が出ていたか報告する。また自分達の意見に対しどんな反応があったかについても報告する。発言者、質問者、記録者等の役割を明確にし、交代して話し合いを繰り返すことで児童の目的意識を高める（図5）。

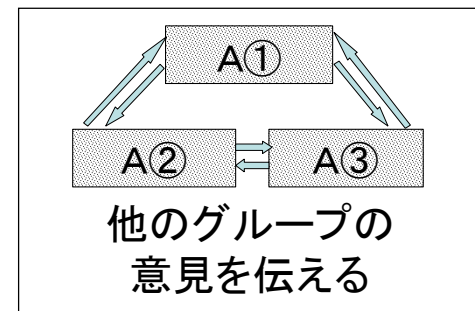


図 5

(3) 振り返りシートの開発

児童が自分の成果と課題を把握し、次の目標をたてることができるように、毎時間記入できる振り返りシートの作成を行った。振り返りシートには、「話すこと・聞くこと」において確認する項目を各十項目挙げ、児童自身にできていたかどうか確認させ、一点ずつ加点し、その時間の達成度を数値化できるようにした。また、よくできたところと今後の目標を記入できるようにし、児童自身に成果と課題を意識させるようにした。

【振り返りシートの使用法】

- ア 授業後に毎回児童が記入し、めあてがどれくらい達成できたか数値化する。記入後、話し合いを行った構成員で再度話し合い、互いの学びを確認する。
- イ 授業後、児童一人一人の振り返りシートに、教員の評価を書き加える。

4 検証授業（11月実施）

都内公立小学校第5学年において授業を実施し、手だての有効性を検証した。

【単元名】「自分の思いや考えを明確に話し、相手の意図をつかんで聞こう」（全5時間）

【教材名】「学校を百倍すてきにする方法」（学校図書 第5学年上）

(1) 話し方・聞き方モデルの具体的指導方法に関する検証

「伝えたいことを明確に話す方法」、「相手の意図をつかんで聞く方法」をポイント集で端的に示したことにより、児童は毎時間それを手掛かりに話し合いを行った。話し方では、一文を短くして、言いたいことを最初に言うように意識していた。聞き方では、最初は相づちを打つことのみが多かったが、次第に「つまり」等の表現をつかって要約できるようになった。

(2) 少人数のグループによる学習形態の工夫と計画的な役割交代の方法に関する検証

一人一人の役割を明確にしたことで、児童は自己の役割を果たそうという意識をもつことができ、「話すこと・聞くこと」の要点を自ら確認していた。また、一斉の話し合い形態で一度も発言しなかった児童15人は、少人数のグループで話し合うことで全員発言することができた。

(3) 振り返りシートに関する検証

確認する項目を設け児童自身に数値化させたことにより、学習目標が明確になった。また、よくできたところと今後の目標を記入させたことにより、成果と課題が明確になった。

(4) 児童の変容

	検証授業以前の話し合い活動の様子	2/5時の活動の様子	4/5時の活動の様子	5/5時の活動の様子
教師が見た行動	<p>【話すこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間の授業での発言はなかった。 <p>【聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言者の方を見ながら静かに話を聞いている。 	<p>【話すこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に「他には？」と聞かれることにより、「休み時間一緒に遊べるから。」と話す。 <p>【聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①「<u>聞き方ポイント集</u>を見て、「<u>つまりとても本が好きということですね。</u>」と伝えることができた。 	<p>【話すこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②「<u>話し方ポイント集</u>を基に「<u>一つめは挨拶ができる学校。二つめは協力できる学校。</u>」と話すことができた。 ・報告者として最初のグループで話す。話し合いの様子が書かれた紙を見ながら話している。 <p>【聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～と同じで」という言い方で報告した。 	<p>【話すこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・③報告者として「<u>僕のグループではルールを守ることが、けが人を出さないことにつながるという意見が出ました。</u>」とメモを見ないで明確に話すことができた。 <p>【聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・④報告者として「<u>素敵な学校にするためには丁寧な言葉が大切だということが分かりました。</u>」と、聞いたことをもとに自分の意見を述べることができた。

(5) 考察

【表1】検証授業前と検証授業中における児童の変容

- ・ポイント集を活用することで、要点をおさえた話し方や聞き方ができた（表1の①、②）。
- ・発言者、質問者、記録者などの役割を明確にし、一人一役を与えることで、目的をもって話す、聞くという自覚が児童に生まれ、明確に話すことや、相手の意図をつかんで聞くことにつながった（表1の③、④）。

第4 研究の成果

- ・話し方・聞き方モデルを具体的に示した指導を行うことにより、児童は大切なことを聞き手に分かりやすく伝え、話し手の発言を引き出し、意図をつかんで聞くことができた。
- ・計画的な役割交代を取り入れた少人数での話し合い、毎時間の振り返りにより、児童は話すこと・聞くことの活動を繰り返し行い、成果と課題を意識した学習につなげることができた。

第5 今後の課題

- ・低学年、中学年の目標に沿った「話すこと・聞くこと」の単元指導計画を作成する。
- ・振り返りシートのチェック項目を精査し、汎用性と使いやすさの充実を図る。